

ハマナスを加害する害虫

上条一昭 駒井古実* 鈴木重孝

ハマナスが北海道の花に指定されたのは 1978 年である。それ以来ハマナスは緑化樹としての人気が高まり、公共施設や一般家庭に植えられることが多くなった。これにつれて害虫の発生が目立つようになり、害虫の種類や防除方法についての間合せが年々増加してきている。

一方、3年ほど前から小清水原生花園でハマナスの立ち枯れが急に目立ちはじめ、新聞やテレビでしばしば話題にされてきた。そして 1982 年には、花のつきが極端に悪くなって、訪れる観光客をがっかりさせ、観光上、大きな問題となった。この原生花園で花の数が少なくなった直接の原因は立ち枯れであるが、これに加えて害虫による花の食害も大きいことがわかり、網走国定公園管理事務所から害虫の調査を依頼された。1982 年 6 月、さっそく現地を訪れて調べた結果、大部分の花がハマキガの幼虫によって食べられ、開花する前にしおれて落ちてしまうことを確認した。この幼虫を同定のため持ち帰って成虫を羽化させたところ、2年前に稚内から新種として記載されたばかりのエゾシロヒメハマキであること、さらにこれに近縁なハマナスヒメハマキも少し混っていることがわかった。

この年の 8 月上旬、「小清水原生花園ハマナス保護対策打合せ会」が道庁生活環境部自然保護課で開かれ、ハマナスの更新方法や害虫防除などが討議された。その結果、ハマナス保護対策の一環として、エゾシロヒメハマキの薬剤防除を試みることになった。このためには、エゾシロヒメハマキの生活史を知ることが何よりも必要であったため、石狩浜に何回か通い、成虫の羽化時期は 8 月であること、恐らく産卵後まもなく幼虫が孵化し、幼虫で越冬するらしいという見当がついた。さらに原生花園での予備調査により、散布はまだ盛んに活動している成虫と、孵化したての幼虫の両方をねらい、8 月 27 日に行うことに決め、1ha の試験地を天覧ヶ丘に隣接する場所に設けた。当日は風が強かったが、公園管理事務所と小清水町の関係者により予定通り、スミチオン乳剤 50%1000 倍液を散布することができた。2 週間後の 9 月 10 日、ハマキガの幼虫がかなり死亡しているのを確認できたが、最終的な効果判定は翌年の開花時期に花の被害率で示したい。

ハマナスは緑化樹の中では害虫の種類数が多い樹種である。葉や花を食べる害虫、果実に入る害虫、枝を枯らすカイガラムシ、虫こぶを沢山作って美観をそこねるタマバチやタマバエ、問題になりそうな害虫がいろいろと出てきそうである。そこでこれを機会に、ハマナス害虫の種類、生活史、防除方法などを調べてゆきたいと考えているが、ここではとりあえず、1982 年の予備的な調査で得られた害虫の種類を明らかにし、その見分け方や生活史についても簡単に

* 大阪府立大学農学部、1982 年夏、臨時職員として林業試験場で害虫の飼育や同定にたずさわった。

ふれ、参考に供したい。

なお調査に当り御協力をいただいた自然保護課，網走支庁林務課の各位，いつも現地に同行され調査のお手伝いをいただいた網走国定公園管理事務所大森信善所長に厚く御礼中しあげる。また下記の方々には害虫の一部を同定していただいた。農業技術研究所宮崎昌久博士（アブラムシ），北海道大学高本貞夫博士（カイガラムシ），大阪府立大学伊藤修四郎博士と北海道大学巢瀬司博士（ハエ），愛媛大学久松定成氏（ケシキスイ），日本専売公社生物実験センター滝沢春雄氏（ハムシ），九州大学森本桂博士（ゾウムシ），石川県農業短期大学富樫一次博士（ハバチ）。心から御礼中しあげる。

害 虫 の 種 類

1982年の調査で判明した害虫は，半翅類4種，蛾類13種，ハエ類2種，甲虫類3種，ハチ類4種で，合計26種に達した。これらのうちハマナスヒメシンクイとハマナスミバエは日本から今回はじめて記録される種類である。

アブラムシ，カイガラムシ類（半翅目）

1. ハマナスヒゲナガアブラムシ *Macrosiphum mordvilkoii* Miyazaki（アブラムシ科）

北海道のハマナスからは，このほか5種のアブラムシが記録されている。

2. コナカイガラムシの1種 *Coccurella* sp.（コナカイガラムシ科）

小枝に固着して樹液を吸収し，小枝を枯らすことがある。成熟した雌成虫はほぼ半球形，直径は7mm前後に達し，表面は白色のロウ物質で覆われる。年1世代，7月下旬から孵化し，幼虫は秋まで葉に付いている。小清水原生花園には非常に多い。

3. タマカタカイガラムシの1種 *Eulecanium* sp.（カタカイガラムシ科）

細い幹に寄生する。成熟した雌成虫は楕円形で脊面は盛り上る。体長は5mmに達し，小豆色，年1世代で7月下旬から孵化する。

4. リンゴカキカイガラムシ *Lepidosaphes ulmi* Linné（マルカイガラムシ科）

ナナカマドをはじめ多くの樹木に寄生する。幹や小枝につき，数が多い場合は枯死することがある。年1世代，介がらは暗褐色で細長く，長さは3.5mm内外である。

蛾 類（鱗翅目）

5. ムグリチビガの1種 Nepticulidae（ムグリチビガ科）

非常に小型の蛾で，幼虫は葉に潜って食害する。

6. モモヒメシンクイガ *Carpocapsa nipponensis* Walsingham（シンクイガ科）

幼虫は果実に穿入して果肉を食べる。ハマナスのほか，モモ，ナシ，リンゴなどバラ科植物の果実を食害する。年1～2回発生し，老熟幼虫で越冬する。幼虫は体長15mmに達し，頭部は黄褐色，前胸脊樑と硬皮板は褐色，胴部ははじめ黄白色だが，老熟すると淡紅色から赤色となる。

7. テングハマキ *Sparganthis pilleriana* Denis and Schiffermüller (ハマキガ科)

葉をつづって食害し、多くの植物を加害する。年1回発生、若齢幼虫で越冬し成虫は7月から8月上旬に出現する。老熟幼虫は20mm内外、頭部は暗褐色、前胸脊楯は茶色で後縁は暗褐色、胴部は黄白色で脊面は灰緑色、硬皮板は白色。尾叉を有する。

8. ミダレカクンモンハマキ *Archips fuscocupreanus* Walsingham (ハマキガ科)。

葉を乱雑に束ねて食害、多くの広葉樹につく。年1回発生、卵で越冬、6月下旬に老熟幼虫となり成虫は7月に出現する。幼虫は20mm内外に達し、頭部は明るい茶色、前胸脊楯は暗褐色、胴部は灰白色、脊面は暗緑色で灰褐色の縦線が走っている。尾叉を有する。

9. ゴマフミダレハマキ *Acleris rufana* Denis and Schiffermüller (ハマキガ科)

幼虫は1枚の葉を縦に折り合せ、その中に生息する。ハマナスのほか、サクラ属、リンゴ属の植物につくことが知られている。年1回発生、成虫で越冬する。幼虫は8月下旬頃蛹化、9月に羽化すると思われる。老熟幼虫は15mm内外、頭部は黄褐色、前胸脊楯は黄褐色で側面に不規則な紋がみられる。胴部はやや細長く淡黄緑色。尾叉を有する。

10. ヒメハマキガの1種 *Lobesia* sp. (ハマキガ科)

葉を食害し、9月中旬に蛹化した。老熟幼虫は10mm内外で非常に活発。頭部と前胸脊楯は茶褐色、胴部は細長く赤褐色で硬皮板は白色、尾叉がある。

11. シベチャツマジロヒメハマキ *Hedya ochroleucana* Frölich (ハマキガ科)

幼虫は葉を乱雑に束ねて食害する。成虫は7月に羽化する。多分年1世代、老熟幼虫は15mm内外、頭部は黒色、胴部は明るい緑色。

12. バラシロヒメハマキ *Notocelia rosaecolana* Doubleday (ハマキガ科)

幼虫はハマナスの新梢、新葉、つぼみを束ねて加害する。ハマナスのほかいろいろなバラ類につく。年1回発生、中齢幼虫で越冬し成虫は6月中旬より発生する。老熟幼虫は肥満し12mm内外、尾叉を有する。

13. ハマナスヒメハマキ *Notocelia plumbea* Nasu (ハマキガ科)

加害様式はバラシロヒメハマキに類似する。年1回発生、若齢または中齢幼虫で越冬し成虫は7月中旬から8月上旬に出現する。老熟幼虫は12mm内外、頭部は淡黄褐色、前胸脊楯は暗褐色、胴部は肥満し光沢のある淡赤褐色、脊面および気門下に黄色の不明瞭な縦線がある。尾叉を有する。

14. エゾシロヒメハマキ *Notocelia longispina* Nasu (ハマキガ科)

加害様式はバラシロヒメハマキに類似。若齢幼虫で越冬すると思われる。成虫は8月上旬ー9月上旬に出現。老熟幼虫はハマナスヒメハマキによく似ているが、黄色の縦線はなく、また尾叉を欠く。

15. ハマナスヒメシンクイ (新称) *Grapholita rosana* D.anilevsky (ハマキガ科)

日本新記録。幼虫は果実に穿入する。多分年1回の発生で成虫は7月に出現、老熟幼虫は8月下旬から9月上旬にみられ、このまま越冬すると思われる。老熟幼虫は11mm内外、頭部は

褐色，胴部は白色，老熟すると赤味をおひる。尾叉を有する。

16. オビカレハ *Malacosoma neustria* Linné (カレハガ科)

エゾノコリンゴ，ヤナギ類その他多くの広葉樹の葉を食害する。年1世代，卵で越冬し5月に孵化，7月に成虫となる。幼虫は長さ6 cmに達する毛虫で灰青色，脊に棕色の縦線がある。

17. ヒメシロモンドクガ *Orgyia thyellina* Butler (ドクガ科)

多くの広葉樹の葉を食べる。年2回発生，卵で越冬する。

ハエ類 (双翅目)

18. ハマナスハフクレタマバエ (タマバエ科)

1枚の葉を縦に折り，その中に幼虫が群棲する (数匹から50匹近い)。折れた葉は肥大し鮮やかな赤紫色となる。幼虫は2.5 mm内外に達し橙色。

19. ハマナスミバエ (新称) *Rhagoletis alternata* Fallén (ミバエ科)

日本新記録，幼虫は果実に入り果肉を食べる。9月に土中で蛹化，年1世代と思われる。老熟幼虫は6 mm内外で淡黄白色。

甲虫類 (鞘翅目)

20. キベリチビケシキスイ *Meligethes violaceus* Reitter (ケシキスイ科)

幼虫は花のつぼみの中に集団で住み，おしべや花びらを食べているらしい。土中で蛹化する。成虫も花に集まり，6月から9月にかけて非常に多い。このほかのバラ科の花でもよくみられる。老熟幼虫は5 mm内外，頭部は黄色，胴部は白色で紡錘形，脚は発達している。成虫は体長3 mm，楕円形，体は黒色で脚は赤褐色。

21. ウリハムシモドキ *Atrachya menetriesi* Faldermann (ハムシ科)

多くの植物を食べる大害虫。成虫が果実を食べていた。

22. カセンソウハナゾウムシ *Anthonomus terreus* Gyllenhal (ゾウムシ科)

幼虫はキベリチビケシキスイと同じく花のつぼみの中で生活する。成虫は6~9月に出現し花に集まる。原生花園に多い。幼虫は4 mm内外に達し，湾曲している。体は乳白色。成虫は体長3 mm内外，吻は細長い。黒色で灰色の縞がある。

ハチ類 (膜翅目)

23. バラクキハバチ *Ardis brunniventris* Hartig (ハバチ科)

幼虫は新梢に穿入して食害し，6月下旬から葉の間に灰褐色のまゆを作る。年1世代。幼虫は15 mm近くに達し，頭部は淡黄色，胴部は乳白色，7対の腹脚がある。

24. ハマナスクロハラタマバチ *Diplolepis fukudae* Shinji (タマバチ科)

小枝に直径2~4 cmの球状の虫こぶ(ゴール)を作り，その表面にはトゲが密生し，また小型化した葉も着生している。虫こぶの中には小さな室が沢山あって幼虫が1匹ずつ入っている。

年1世代で6月上旬に1つの虫こぶから20~30匹の成虫が羽化する。

25. ハマナスタマバチ *Diplolepis japonicus* Walker (タマバチ科)

葉の裏に直径6mm前後の球形の虫こぶを作り、その中に1匹の幼虫が入っている。1枚の葉に10個以上も虫こぶのつく場合がある。虫こぶの表面は滑らかで淡緑色、日当りのよい虫こぶは秋に赤くなる。年1世代、成虫は5月下旬から6月上旬に羽化し、葉裏に産卵する。虫こぶは9月に成熟し、秋おそく地上に落下。幼虫で越冬する。

26. バラノミオナガコバチ *Megastigmus aculeatus* Swederus (オナガコバチ科)

種子を食べる。1粒の中に1匹の幼虫がいて内部を空にする。年1世代、成虫は6月に羽化して果実に長い産卵管をさし込んで種子内に産卵する。種子の中で幼虫で越冬する。